

## 第6学年国語科学習指導案

単元名 名画のよさを伝える解説文を書こう

教材名 「『鳥獣戯画』を読む」 高畑 勲 (光村図書 6年)

「この絵、わたしはこう見る」 (光村図書 6年)

### 1 単元について

#### (1) 児童観

児童は、図や表などの資料と本文を照らし合わせながら読むという活動は前学年までに経験しているが、絵と文章を照らし合わせながら読むのは、本単元が初めての学習となる。これまでには、「生き物はつながりの中に」(光村図書6年)の教材文を使って筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えをまとめる学習をしている。この単元の学習の中で「序論」「本論」「結論」「形式段落」「意味段落」などのこれまで獲得した学習用語の確認をした上で、「要旨」「主張」「要約」などの学習用語についても使えるようになっている。また、筆者の主張に対する自分の考えをある程度の文章量にまとめるという経験もしている。作品を通して考えを交流した経験はあるものの、それぞれの考えを伝え合う程度にとどまることが多く、自分の考えを広げたり深めたりするところまでは至っていない。

#### (2) 教材観

本教材は、「漫画の祖」といわれる国宝の絵巻物『鳥獣人物戯画』の一場面の絵を取り上げて解説をした説明的な文章である。筆者は、読者が児童であることを意識し、書き出しや文末の工夫をしたり、一枚の絵を切り離して提示して解説したりするなど、ものの見方を分かりやすく伝える工夫をしている。よって、絵と文章を照らし合わせて、筆者のものの見方や考え方を読み取らせ、それを生かして名画の解説文を書かせるという活用場面に生かすことができる。さらに、絵または絵巻物に対する筆者の評価が随所に書かれており、「読み取ったことや感じたことを表す表現」の効果について学習させるのにも適している。

これらのことから、本教材と次に学習する「この絵、わたしはこう見る」(書く領域)とを関連付け、読む領域で付けた力を書く領域で生かすという形で本単元を構成する。単元を貫く言語活動を「名画の解説文を書き、全校のみんなに紹介する」とした。

本単元で身に付けた力は、中学校で学習する「鑑賞したことを文章に書く」(B書くこと(2)言語活動例ア)で活用されていく。また「読み取ったことや感じたことを表す表現」を数多く獲得し、表現できるようになることで、俳句や詩の鑑賞など国語科だけでなく、図画工作科や音楽科における鑑賞の学習など他教科でも活用できると考える。

#### (3) 指導観

本単元は、「筆者のものの見方を捉え、自分のものの見方を広げたり深めたりすること」と「読みの学習で学んだことを生かして、絵から読み取ったことや感じたことを、絵を見る人に伝わるように表現を工夫して書くこと」をねらいとしている。「解説文を書く」という単元を貫く言語活動を設定し、自分のものの見方で絵を読む力と、読み取ったことを「評価を表す言葉」を用いて解説文に表す力を身に付けさせたいと考える。ここでは、絵のよさを伝えるために筆者が用いている「評価を表す言葉」を、「読み取ったことや感じたことを表す表現」として指導する。筆者の評価が表れている表現を見付けながら読むことが、ひいては自分が解説文を書くときの表現の工夫とし

て生かされていくと思われる。

単元の導入では、数枚の絵を見て題名を付けるという活動を取り入れ、互いに交流させることで、絵の見方の違いやその面白さを味わわせる。その後、「名画のよさを伝える解説文を書き、全校のみんなに紹介しよう」という課題を設定し、目的意識と相手意識をもたせる。学習計画を立てるときには、教科書の「学習の手引き」を参考にさせるようにする。

書くことを意識した読み取りの段階では、「筆者は絵のどこに目を付け、どんな見方をしているのか」「筆者はどんな言葉を使って『鳥獣戯画』を説明したり評価したりしているのか」「筆者は読者に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしているのか」という読みの視点を与える。「読み取ったことや感じたことを表す表現」に着目させる際には、教材文に出てくる言葉以外にもたくさんの言葉があることに気付かせ、本の紹介文や俳句の鑑賞文などの中から進んで見付けさせる活動を取り入れる。また、読者を意識した筆者の工夫を読み取らせる際には「この絵、わたしはこう見る」の書き出しの例も取り上げ、書き出しもいろいろなパターンで工夫できることを実感させる。

読みのまとめの段階では、教材文で示されている部分とは異なる『鳥獣戯画』の一場面を提示する。これまで学習したことを生かしてその絵を読み取らせ、「絵のどんなところに目を向け、どんな『読み取ったことや感じたことを表す表現』を使ったか」をグループで交流させる。交流させることで、友達と自分の絵の見方の相違点や使用した「読み取ったことや感じたことを表す表現」の相違点に気付かせ、書く段階でそれを活用させる。

書く段階では、読者（全校児童）を意識して、表現や構成を工夫することを意識させ、学習を進めていく。完成した解説文と絵は校舎内の廊下など全校児童が見られる場所に提示し、満足感を味わわせるようにするとともに、友達と自分の解説文を比較させ、自分のものの見方や表現の方法を広げさせるようにする。

### 3 単元の目標

- 絵に興味をもち、進んで教材文を読もうとしたり、絵から読み取ったことを伝え合おうとしたりすることができる。
- 絵から読み取ったことや感じたことを、読み手に伝わるように表現や構成を工夫して書くことができる。
- 絵と文章を照らし合わせたり表現の仕方に着目したりして筆者のものの見方を捉えながら読み、自分のものの見方を広げたり深めたりすることができる。
- 文章表現に着目して読み、語句と語句との関係を捉えることができる。

### 4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 絵に関心をもち、文章を読もうとしている。</li><li>・ 絵から読み取ったことを進んで伝え合おうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 目的に合った絵を選び、自分のものの見方を整理している。</li><li>【B書くこと(1)ア】</li><li>・ 表現や構成を工夫して解説文を書いている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 絵と文章を照らし合わせながら、筆者のものの見方や表現の工夫を読み取っている。</li><li>【C読むこと(1)ウ】</li><li>・ 絵から読み取ったことを基に考えを交</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 文章表現に着目して読み、語句と語句の関係を捉えている。</li><li>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)】</li></ul>

	【B書くこと(1)ウ】	流し合い、考えを広げたり深めたりしている。	【C読むこと(1)オ】
--	-------------	-----------------------	-------------

## 5 指導と評価の計画（9時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準とその方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵の題名を想像し、友達の考えと比べながら絵の見方に興味をもつ。</li> <li>○ 教材文を読んで学習課題を設定する。</li> <li>○ 「学習の手引き」を参考にしながら、学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数枚の絵を提示し、絵の題名を考えさせることで、友達との見方や感じ方の違いに気付かせる。</li> <li>・ 『鳥獣戯画』の絵を提示し、気付きを出し合わせた後に、教材文を読ませ、筆者の見方や感じ方を大まかに捉えさせる。</li> <li>・ 「解説文を書く」という目的を確認し、どんな学習が必要なのかを考えさせ、計画を立てさせる。</li> </ul>	<p>【関】 絵について関心をもち、これからの学習の見通しをもっている。</p> <p>〔ワークシートの記述と発言内容〕</p>
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵と文章とを照らし合わせながら、筆者のものの見方を捉え、書かれていることを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の観点を示して、絵と文章とを照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取らせる。</li> </ul> <p>①絵全体のどの部分を取り上げているのか。 ②取り上げた部分の何に着目しているのか。</p>	<p>【読ウ】 絵と文章とを照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取っている。</p> <p>〔ワークシートの記述内容〕</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『鳥獣戯画』を筆者がどのように評価しているのかを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2段落を取り上げ、筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を、文末表現を中心に見付けさせる。</li> <li>・ 筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を別の言葉に置き換えさせたり、自分だったらどんな言葉で評価するかを考えさせたりする。</li> <li>・ 筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」の中で、自分が使いたい言葉をカードに書かせ、一覧表にさせる。</li> </ul>	<p>【読ウ】 筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を整理し、筆者の表現の工夫を読み取っている。</p> <p>〔ワークシートの記述内容〕</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の表現や構成の工夫を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習教材で学んだ内容を想起し、共通点と相違点からそれぞれの筆者の工夫に気付かせる。</li> <li>・ 筆者が書き出しや構成を工夫していることに気付かせる。</li> </ul>	<p>【読ウ】 筆者の表現や構成の工夫を読み取っている。</p> <p>〔ワークシートの記述内容〕</p> <p>【言イ(オ)】 文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えて</p>

				いる。 〔ワークシートの記述の仕方〕
5	○ 絵を見て、自分なりの見方で絵を評価する。  ○ 他の文章の中から「読み取ったことや感じたことを表す表現」を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文で出てきた『鳥獣戯画』の絵とは別の場面の絵を提示する。</li> <li>これまで学習してきたことを確認し、「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使って、読み取ったことを付箋に書かせる。</li> <li>絵のどんなところに着目し、どんな評価の言葉を使ったかを交流させる。</li> <li>これまで出てきた「読み取ったことや感じたことを表す表現」以外にもたくさんの言葉があることを確認させ、それらの言葉は本の紹介文や俳句や詩の鑑賞の中でも使われていることに気付かせる。</li> </ul>	【読オ】 絵を見て読み取ったことを基に絵を評価し、交流することで自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔観察、ワークシートや付箋の記述内容〕	
6	○ 自分が選んだ絵を自分なりの見方で読み取り、整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>解説文を書いて掲示するという目的を確認し、いくつかの絵の中から解説文を書きたいものを一つ選ばせる。</li> <li>教科書 P144, 145 の解説文の例を読ませ、解説文のモデルとして参考にさせる。</li> <li>選んだ絵のどの部分を見て、どんなことを感じたかを付箋に書かせ、絵の中に貼らせる。</li> <li>付箋に書いたことを基にしてワークシートに整理させる。</li> </ul>	【書ア】 目的に合った絵を選び、自分なりの見方を整理している。 〔ワークシートの記述内容や付箋の整理の仕方〕	
7 8	○ 絵から読み取ったことを書き出した表を基に、表現や構成の工夫を考える。 ○ 読み取ったこと、感じたことを文章に表す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文や例文を参考にして書き出しを工夫させる。</li> <li>構成や文章表現も工夫するよう促し、300～400字程度にまとめさせる。</li> <li>書き終わった児童には、どんな「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使い、どんな表現や構成の工夫をしたのか、読み返しながら確認をさせる。</li> </ul>	【書ウ】 表現や構成を工夫しながら解説文を書いている。 〔解説文の記述内容〕 【言イ(オ)】 文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えている。 〔解説文の記述の仕方〕	

	9	○ 完成した解説文を読み合い，感想を交流する。  ○ 学習の振り返りをする。	・ 同じ絵を選んだ児童でグループを作るように指示する。 ・ どこに着目し，どんな表現の工夫をしたのかを交流させ，自分と友達の着目点や表現の仕方の違いに気付かせる。 ・ 振り返りカードを用いて単元全体の振り返りをさせる。	【関】 絵から読み取ったことを進んで伝え合おうとしている。 〔振り返りカードの記述内容や発言内容〕
事後	課外	※ 絵と解説文を全校児童が見られる場所に掲示する。	・ 絵と完成した解説文を全校児童が見られる場所に掲示することで，児童に達成感を味わわせる。	

## 6 本時の計画（5／9）

### (1) 目標

- 筆者の絵の見方や「読み取ったことや感じたことを表す表現」を基にして自分の言葉で絵を読み取り，交流することで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

### (2) 展開

学習活動	○指導上の留意点 ■ICTの活用 ●形成的評価とそれに基づく支援
1 前時の学習を振り返り，本時のめあてを確認する。	○ これまでの学習を振り返らせた後，学習計画を見て本時の学習のめあてを確認させる。
絵を見て読み取ったことをもとにして，自分の言葉で絵を評価しよう	
2 これまで学習してきた筆者のものの見方や筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を想起する。	○ 3時目で作成した「読み取ったことや感じたことを表す表現」の一覧表を提示し，絵を評価する観点として次の2点を示す。 ① 絵から想像したり感じたりしたこと ② 絵のすばらしいところ
3 1枚の絵（教材文で示されている場面とは違う『鳥獣戯画』の場面の絵）を見て，自分なりの言葉を使って絵を評価し，話し合う。  ・一人で絵を評価する。	■ 1枚の絵（教材文とは違う『鳥獣戯画』の絵）の画像を，電子黒板等を用いて提示し，全体を見せたり一部分を見せたりしてイメージをつかませる。  ○ 児童が評価をしやすいように，絵や評価語彙，学習活動の流れを入れたワークシート④を準備し，それぞれについて，説明をする。 ① 絵から想像したり感じたりしたこと →ワークシート④の「想像したり感じたりしたことを伝える言葉」を参考にする。

<p>・少人数で交流する。</p> <p>・全体で交流する。</p> <p>4 話し合ったことを基に自分の評価に付け加えをする。</p> <p>5 様々な場面で使われている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を見付ける。</p>	<p>→黄緑色の付箋に書く。</p> <p>② 絵のすばらしいところ</p> <p>→ワークシート④の「絵をほめる言葉」を参考にする。</p> <p>→黄色の付箋に書く。</p> <p>○ 「見る場所や方法を表す言葉」についても説明し、様々な見方ができることを確認させる。</p> <p>● 着目する観点が分からない児童には、絵を評価する観点（①絵から想像したり感じたりしたこと、②絵のすばらしいところ）を示したカードを参考にさせたり、モデルを示したりする。</p> <p>● 何を評価すればよいか分からない児童に対しては、絵の一部分を見るのか、全体を見るのかを決めさせ、そこから考えたことを書かせるようにする。</p> <p>○ 三人(または四人)での交流のときには、大きめの絵を一枚準備し、それを使って話合いが進められるようにする。</p> <p>○ 絵のどんなところに着目し、どんな評価の言葉を使ったかを交流させるようにする。</p> <p>● 机間指導をしながら話合いの観点がずれていないかを確認し、修正する必要がある場合は、アドバイスをする。</p> <p>○ 発言の中で、これまで学習した「読み取ったことや感じたことを表す表現」が出てきたときは、一覧表やワークシート④に載っている評価語彙で確認し、新たな言葉が出てきたときは、付け加えて提示する。</p> <p>○ 交流したことで、自分の見方や考えが広がったり深まったりしたことが視覚的に分かるように、色の違う付箋で付け加えをさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価【読オ】</p> <p>絵を見て読み取ったことを基に絵を評価し、交流することで自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p style="text-align: center;">〔観察、ワークシートや付箋の記述内容〕</p> </div> <p>■ 児童が興味をもてるような画像を電子黒板等で紹介し、その画像を評価している文章（本の帯やコンサートのちらしなど）を使って、「読み取ったことや感じたことを表す表現」を見付けさせる。</p>
--	--

<p>6 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 詩や俳句の鑑賞，音楽の鑑賞などにも使われていることを紹介する。</li><li>○ 次時から，自分の選んだ絵を使って解説文を書くことを学習計画表で確認させる。</li></ul>
---------------------------------	---